

A blue and yellow pennant-shaped logo with the text "KWANSEI GRAND CHALLENGE 2039" in white.

KWANSEI
GRAND
CHALLENGE
2039

将来構想

Kwansei Grand Challenge 2039

中期総合経営計画

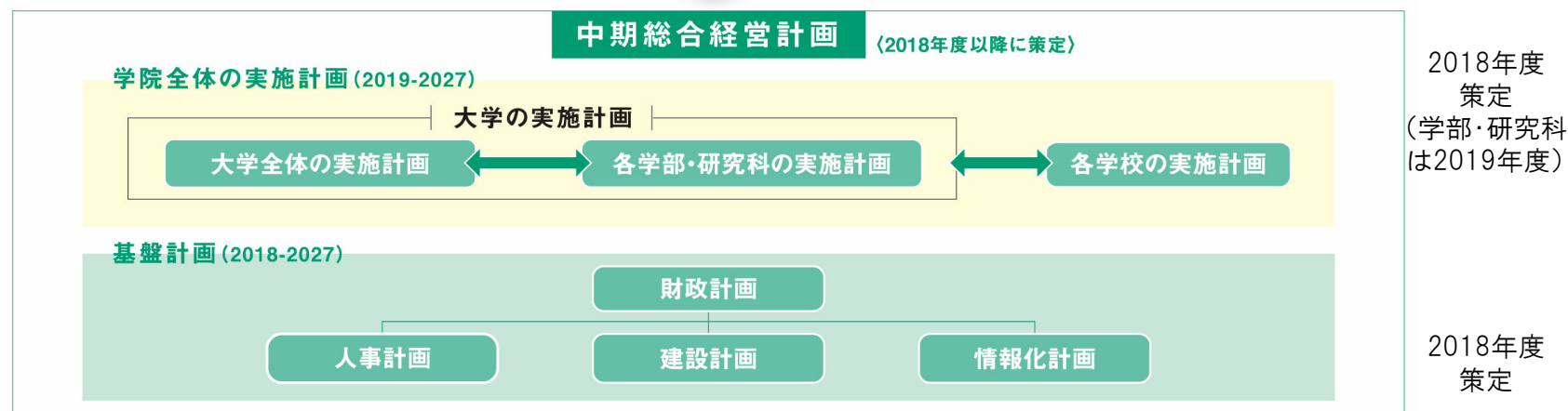
2022年度進捗報告《抄録》





関西学院 将来構想の全体像

Kwansei Grand Challenge 2039





長期戦略の全体像と主たる目標と重点施策

建学の精神

キリスト教主義に基づく全人教育

ミッション

“Mastery for Service”を体現する世界市民の育成



共通テーマ

総合学園と一貫教育

学士課程教育

大学院教育

研究

国際化

産官学連携

KSCでのイノベーション推進

産官学の連携強化

DX

(デジタルトランスフォーメーション)

特長ある一貫教育の創出

国際化の推進

アイデンティティの共有

内部進学者の増加

「総合学園」の枠組み再構築

学修成果の把握・評価

教育の長期的成果の検証

カリキュラムの基本構造の改革

「柔軟な学位プログラム」の検討

教育分野の再編

国際化の推進

国連等との連携強化

正課外教育の推進

教員個人・組織の教育力向上

ICTによる教育・学修支援

対面的なコミュニケーションの促進

学修支援の充実

学生生活支援の充実

多様性と学力の担保(受入)

研究者の輩出

理系研究室の充実

高度職業人の養成

自学出身研究者比率の増加

個別研究の活性化

研究ブランドの確立

情報化

革新的な情報環境の構築

財政

積極的な投資と
強固な財政基盤の確立

新規事業の財源確保

人事

人事政策の確立(教員)

人事政策の確立(職員)

建設

施設建設・設備整備計画

マネジメント

Evidence - based
Managementの推進

二つのPDCAサイクルの統合

ガバナンス改革の継続

ブランドの構築

地域に密着したキャンパス

学生規模

卒業生との連携

SDGsの推進

学校経営



1. 学士課程

社会や世界に貢献して「真に豊かな人生」を
送るための基盤を創る

国際化の推進

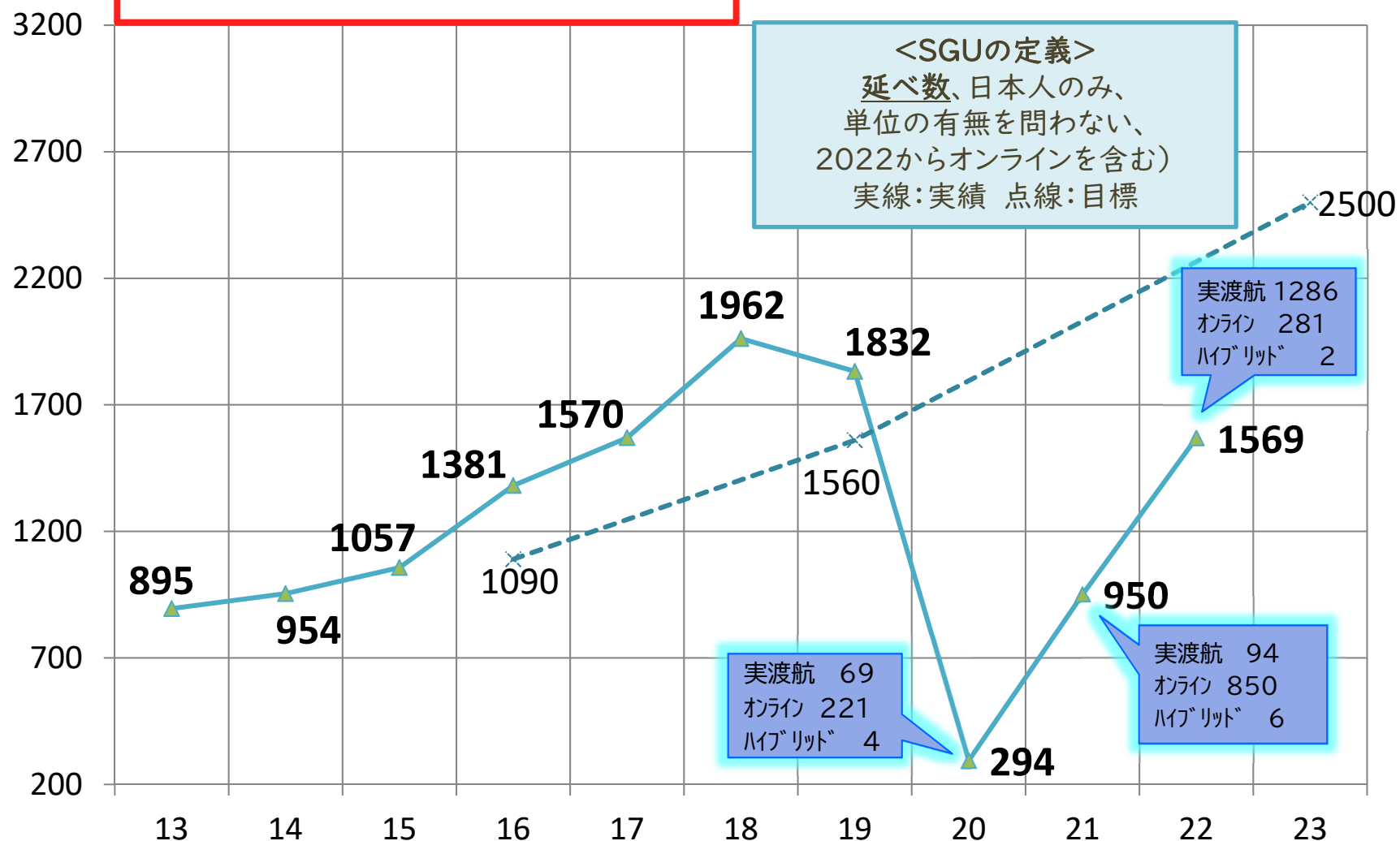


1-(6)協定大学への留学派遣者数(SGU定義)

2022
年度

2022年度の目標⇒実績

協定校への海外派遣2,450人⇒1,569人



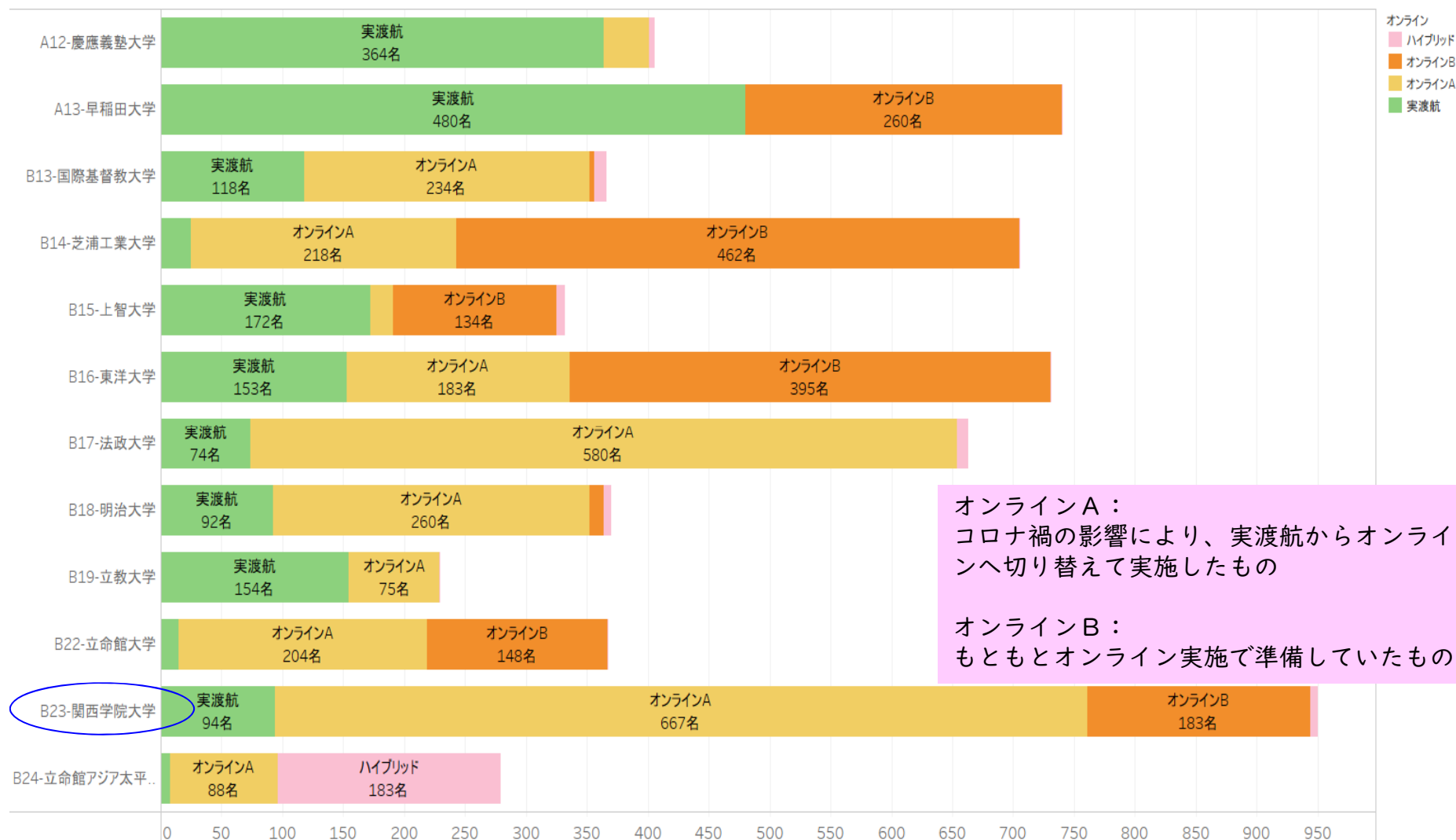
※2020年度以降は、文部科学省の方針も受け、オンラインによる短期国際教育・交流数も算入。



1-(6)協定大学への留学派遣者数(SGU定義)

2021
年度

SGU採択校37校の中で最多

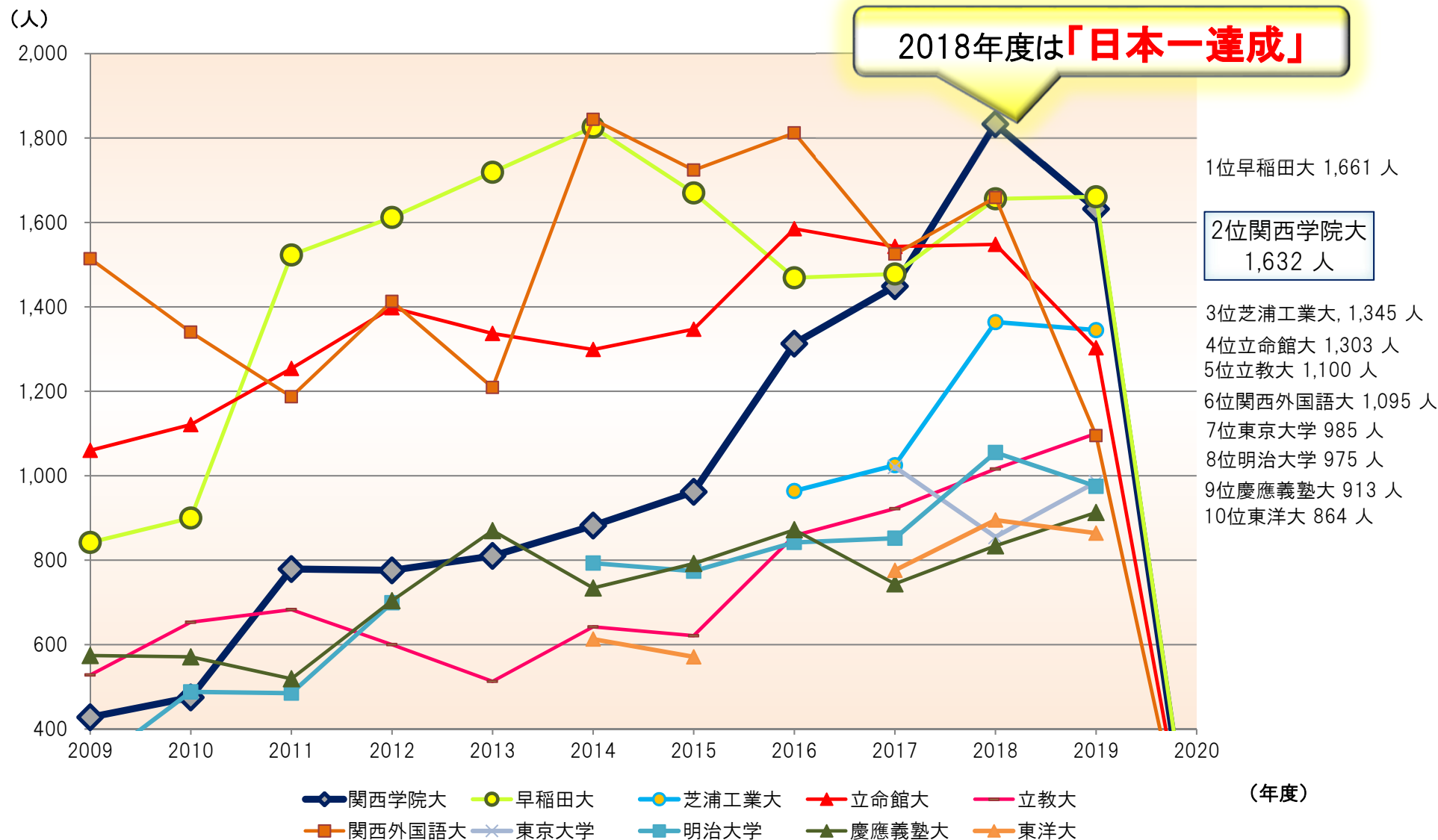


令和4（2022）年度実施SGUフォローアップ調査、独立行政法人日本学術振興会の資料をもとに作成



1-(6) 協定大学への派遣学生数(JASSO定義)

日本学生支援機構(JASSO,文科省独法)による発表。国公立大すべてにおける上位10大学の推移



※JASSO(日本学生支援機構)より抜粋 ※順位は、国公立大含む順位



1-(6)協定大学への派遣留学者数(JASSO, 2021年度)

順位	学校名	派遣数(人)	順位	学校名	派遣数(人)
1	早稲田大学	479	11	立教大学	155
2	近畿大学	435	12	安田女子大学	154
3	関西外国語大学	328	13	東洋大学	149
4	慶應義塾大学	311	14	東海大学	148
5	名古屋外国語大学	252	15	国際教養大学	145
6	同志社大学	237	16	国際基督教大学	129
7	桜美林大学	204	17	武蔵野	128
8	上智大学	176	18	東京大学	124
9	東京外国語大学	172	19	同志社女子大学	122
10	玉川大学	164	20	大阪大学	116



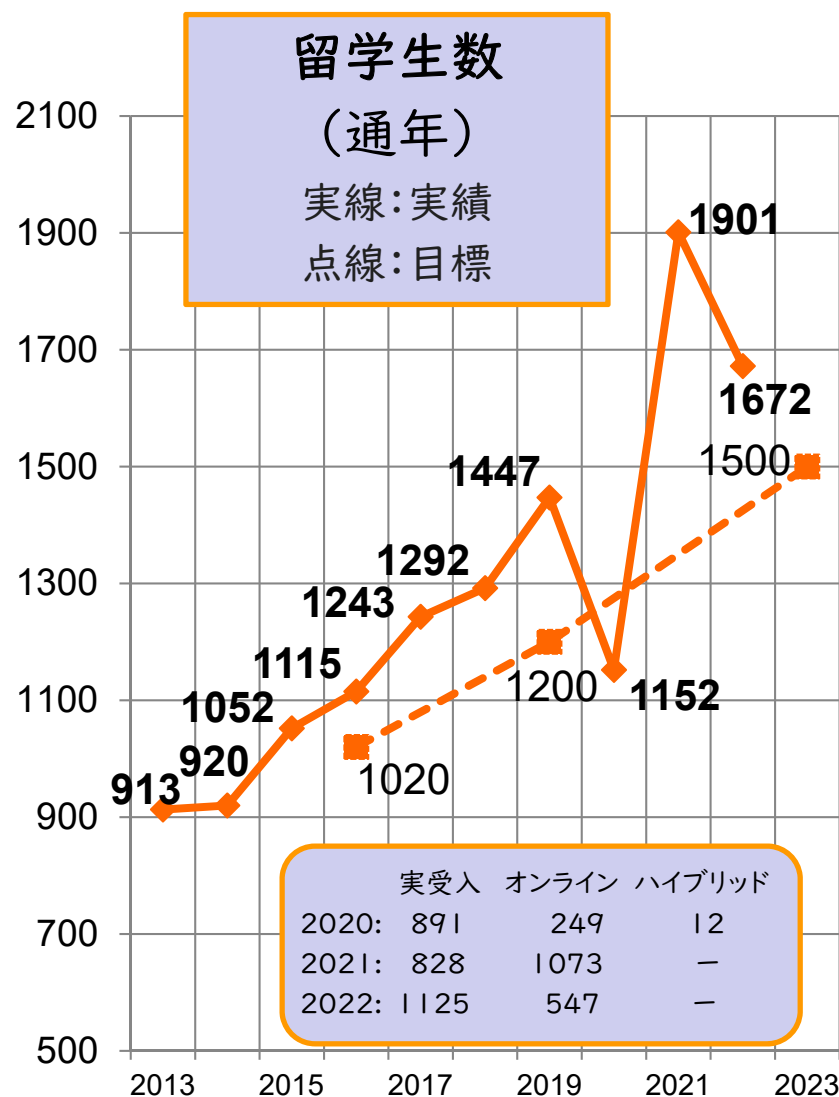
ー	関西学院大学	104
---	--------	-----

参考情報: 日本学生支援機構(JASSO)奨学金の支援再開状況
 2020年11月 海外大学の学位取得を目指す留学の支援再開
 2021年6月 協定に基づく1年以上の留学プログラムの支援再開
 2022年2月 協定に基づく1年未満の留学プログラムの支援再開



1-(6) 受け入れ留学生数(SGU)

2022
年度



2022年度の目標⇒実績

留学生受入1,400人⇒1,672人

【主な取り組み】

短期受入プログラムの拡充、受入留学生のための日本語教育強化、渡日前入試の拡大

・留学生の実受入はコロナ禍で一時的に停止せざるを得なかったが、2021年はオンラインでの受入が大幅に増加し、2022年度は実受入が回復しつつある。

・協定校からの留学生は、交換留学の送り出し枠を確保するためにも積極的に受け入れている。

・短期受入プログラムの拡充や日本語教育の強化にも努めてきており、本学の受入は量的には多いとは言えないものの、質的には海外の送り出しの大学からは高く評価されている。

※2020年度以降は、文部科学省の方針も受け、
オンラインによる国際教育・交流数も算入。



1-(15) 国際教育寮「有光寮」の供用開始

2022
年度

2022年度の目標⇒実績

外国人留学生宿舎280部屋(～2024年目標)の確保、国際教育寮に住む留学生90人、日本人学生160人⇒新国際教育寮「有光寮」(83部屋)を含む252部屋を確保、留学生103人、日本人学生188人。

世界各国からの外国人留学生と日本人学生が共同生活を通し、文化・習慣等の相違を乗り越えて相互理解を深める「国際教育寮」を建設し、2022年3月に開寮した。



レジデント・アシスタント
配置



多様な国際教育・交流
プログラムを提供

寮生のリーダー役を担う日本人学生のレジデント・アシスタント(RA)を配置し、RAの活動を通してグローバルリーダーとなる資質を涵養する。

国際交流イベントや国際教育プログラムを実施し、寮生以外の学生にも参加を促し、キャンパスでの「内なる国際化」を推進する。

有光寮(83室)の入寮状況

2022 春	外国人留学生	正規 交換	14人 受入停止
	日本人学生	RA 一般	3人 13人
2022 秋	外国人留学生	正規 交換	14人 44人
	日本人学生	RA 一般	7人 13人
2023 春	外国人留学生	正規 交換	12人 39人
	日本人学生	RA 一般	8人 14人

レジデンスセンター開設

有光寮を含めた大学寮(10寮)の運営・管理の効率化や国際教育等を担うため、国際連携機構に2022年4月に「レジデンスセンター」を設置した。

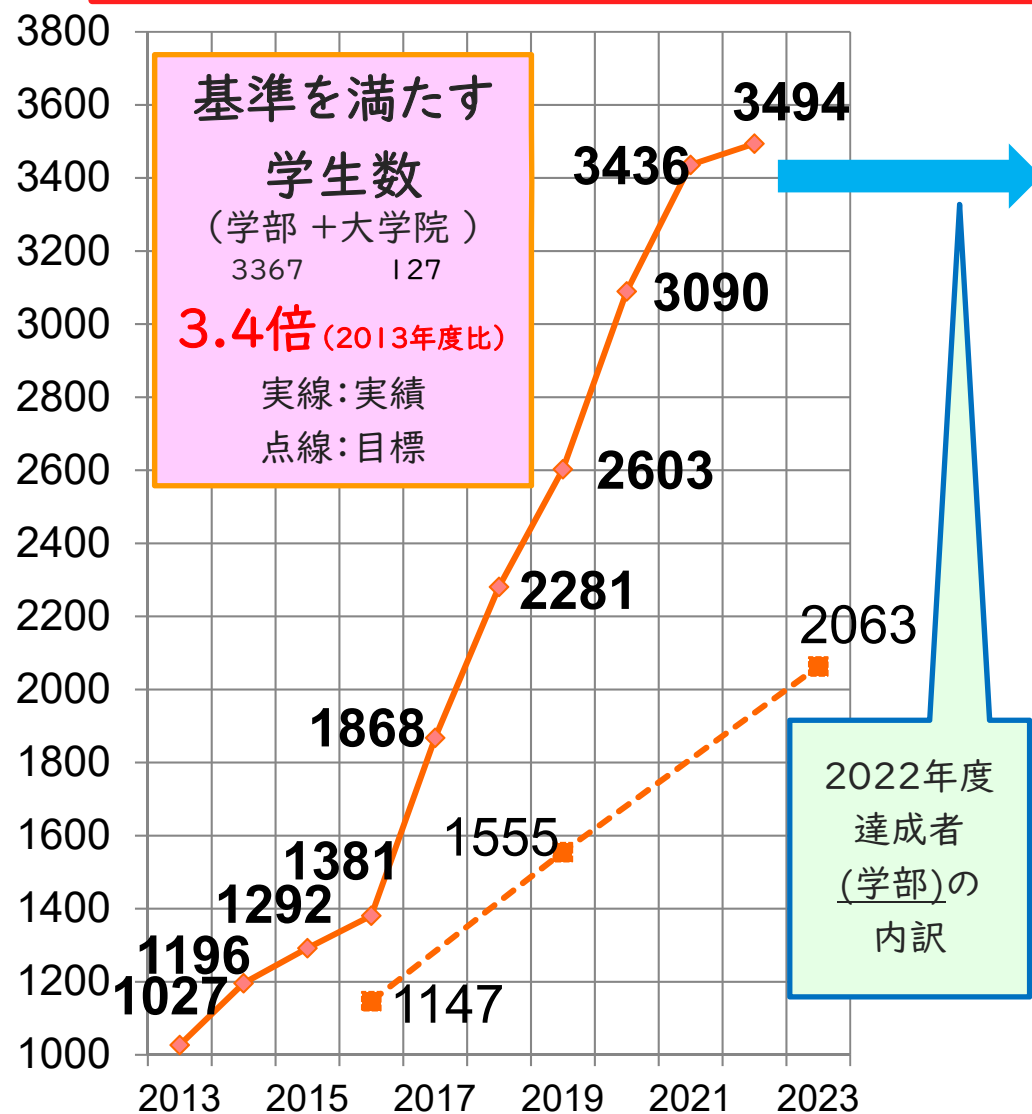


1-(6)外国語力基準を満たす学生数:実績と目標

2022
年度

2022年度の目標⇒実績

2023年度までの目標2,063人⇒3,494人(2022年度実績)



基準 (上段:TOEFL-ITP) (下段:TOEIC)		人数	収容定員 に 占める割 合
550点 770点	国際	503	41.9%
540点 710点	文 総政	396 184	12.9% 9.3%
520点 670点	神	14	11.6%
	社会	356	13.7%
	法	371	13.6%
	経済	391	14.4%
	商	556	21.4%
	理工	148	5.3%
	人福	138	11.5%
	教育	135	9.6%
	理	24	3.3%
	工	56	5.3%
	生環	70	7.7%
	建	25	4.7%

教育分野の再編
(KSCの理系再編)



1-(4) KSCコンセプト “Be a Borderless Innovator.”

2021
年度

1. 地球規模課題に 革新を起こす探究

“Sustainable Energy” の一大研究拠点を形成

2. 国境を越えた学び

海外学修を含む国際プログラムを大幅に拡充

教育・研究 4つの特長

3. 文系理系や学問分野の 境界を越えた学び

分野横断型の教育システムを確立

4. 大学の枠を越えて 実社会で起業する学び

アントレプレナー育成プログラムの創設

KSC Ⅷ号館の竣工(2022年8月)

2022年度の目標⇒実績

2022年夏竣工⇒2022年8月供用開始

窓口のワンストップ化による利便性向上を図り、
キャンパス内に複数散在していた

事務機能を統合した事務室を開室



屋上の天体観測ドームには

天体望遠鏡(口径40センチ 反射望遠鏡)を設置

理学部物理・宇宙学科における宇宙・天体観測に
加え、近隣の小中高生対象の体験イベントも計画。



館内(地上4階建)には

◆ パウダールーム **本学初**

◆ 講義教室(全17室)
等を設置





1-(4) 4.アントレプレナー育成プログラム

2022
年度

2022年度の目標⇒実績

KSCにてSTARTUP ACADEMYの開講、修了者25名
⇒春学期に開講、同修了者28名(うちKSC10名)

KSC全体での「総合的な起業家育成プログラム」を開始

1. 正課科目

- ①「ベンチャー起業家講座」(理学部開講) [120名履修\(21年秋\)/520名履修\(22年秋\)](#)
- ②「ベンチャービジネス演習」(総合政策学部:23年度開講)
- ③「起業家育成プログラム(理系学生対象)」(総合政策学部によるKSC分野横断科目群)
- ④「AI活用人材育成プログラム」(全学開講)



2. 正課外プログラム「KG START-UP ACADEMY for KSC」

2017年度から西宮上ヶ原キャンパスで実施しているものをKSC理系学生向けに2022年度より開講。

株式会社ウィルフにより約半年(週1回)にわたる「学習×実践」による「本物の起業体験」が積める

	説明会参加	受講	卒業	法人設立	設立準備中
2022年度	24人	16人	10人	0社	0名



7-(2) KSCインキュベーション施設&学生寮の建設

2022
年度

2022年度の目標⇒実績

2025年1月竣工に向けて公募、基本設計、土地購入、兵庫県・三田市との交渉等を推進

⇒KSC近接地でのインキュベーション施設、学生寮（300室）、フィットネスジムを併設した複合施設の建設については、DBM一括方式の公募による業者選定、基本設計、兵庫県からの土地購入、兵庫県・三田市との補助金交渉も予定通り進んでいる。

ただ、物価上昇などによる工事費増額に関する交渉でスケジュールが2カ月遅れている。

2025年春に供用開始予定

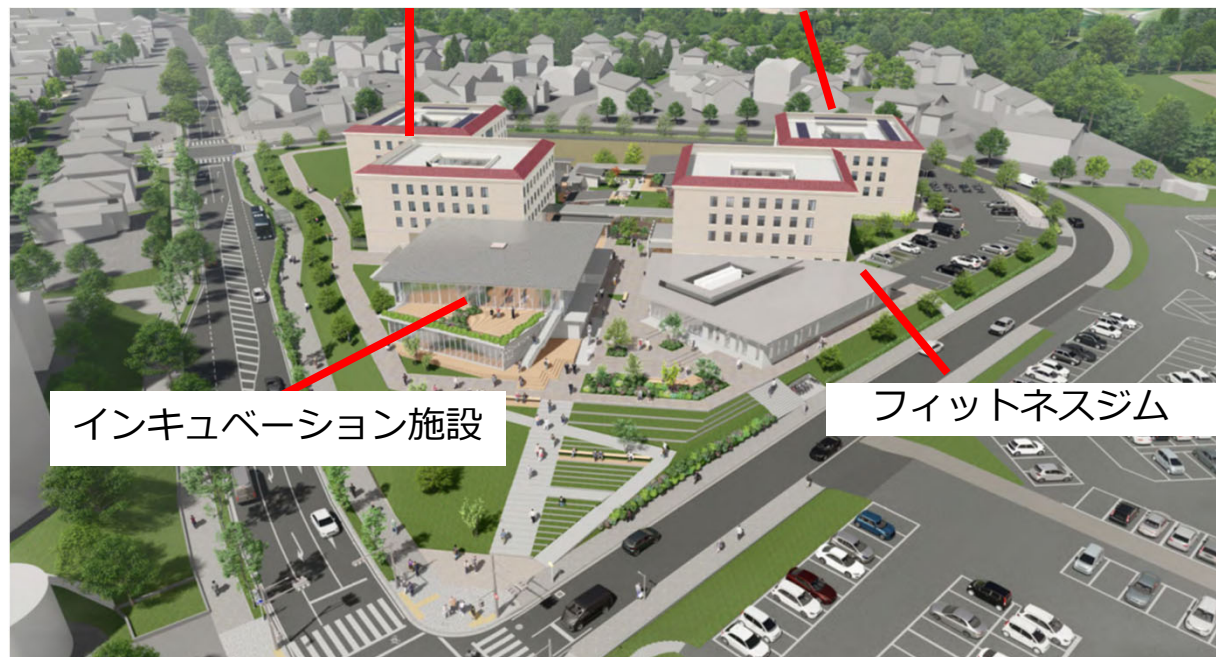
学生寮（4棟、300人収容）

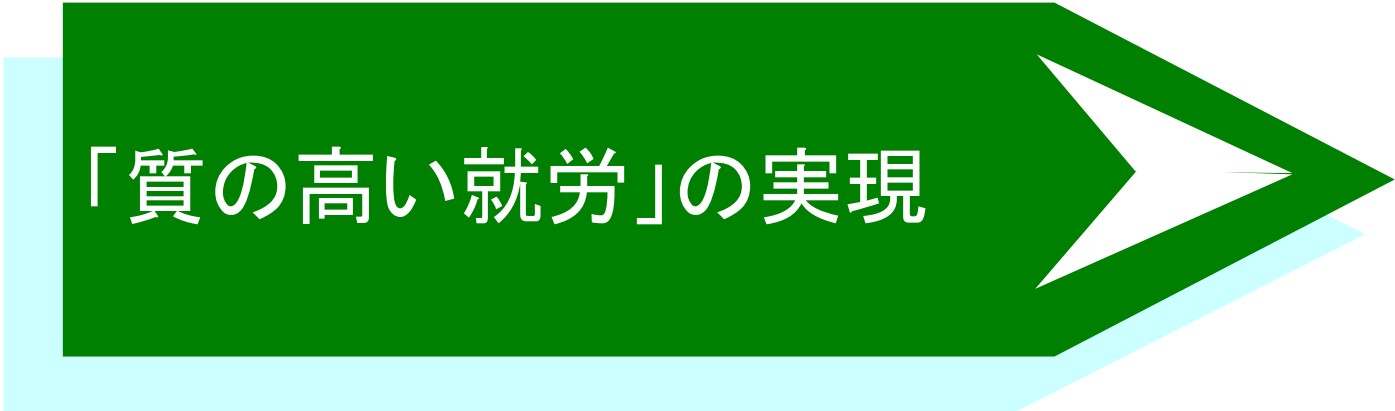
神戸三田キャンパス（KSC）

【整備地】
カルチャータウン
地区センター
南ブロック
敷地約1.8ha



2023年3月 土地購入済





「質の高い就労」の実現



1-(2) キャリア教育プログラムを再構築

2022
年度

キャリア関連科目をハンズオンラーニングセンターからキャリアセンターに移管し、
在学時～卒業後を通貫したキャリア教育プログラムとして再構築する。

「質の高い就労」「真に豊かな人生」を体現する卒業生をモデルとする関学独自の教育体系

在学生対象

受講者がABCのゲスト卒業生として参画

キャリアセンター-開講

「KGキャリア
入門」
(新設)
E-Learning科目

現行のライフ・キャリア
「入門」(自分)
「概論」(企業研
究)
「実践」(組織で生
きる)
3科目の代わりに
現状に即した新た
なプログラムをオン
ラインで提供

KGライフキャリア

キャリアゼミ

A

ゲスト: 若手卒業生
(講義+work)

テーマ: 自分
サブテーマ:
生き抜く力

春学期

B

ゲスト: 中堅卒業生
(共修型work)

テーマ: 仕事
サブテーマ:
チームビルディング

夏休み

C

ゲスト: 企業トップ卒業生
(講義+work)

テーマ: 社会
サブテーマ:
リーダーシップ

春休み

ワークキャリア

企業研究科目

ライフデザインと仕事A(国内企業)/B(外資系企業)<改編予定>

アントレプレナー・PBL科目等

(各学部、研究推進社会連携機構、HoLC等で開講)

アントレプレナー養成講座、あずさ監査法人とのPBL
KG Start-UP Academy(正課外)等

卒業生対象

三日月塾(東京)

対 象: 社会人
(首都圏在住)
(35~45歳の卒業生)
全10回

講 師: 企業トップ卒業生
8人/年
テーマ: ビジネスパーソンとしての
歩み、KGからの影響

三日月塾 in大阪

対 象: 社会人
(関西在住)
講師以下は、三日月塾
(東京)と同じ

新月塾(東京)
対 象: 卒業後10年
以内の女性
特 徴: 女性を対象と
したサークル、キャリ
アを考える、ネットワ
ーク形成



1-(2)「KGキャリア入門」の開講

2022
年度

2022年度の目標⇒実績

「KGキャリア入門開発」履修者数800人⇒11,137人

「真に豊かな人生」を送るために、関西学院でどう過ごすのか

森隆史講師（キャリアセンター長）と卒業生との対談をオンライン配信

- 各界で活躍する卒業生より、大学生活や仕事に対する考え方・価値観・体験談を聞き、受講生が自身のキャリア形成について考え、学びに対する意識を高める

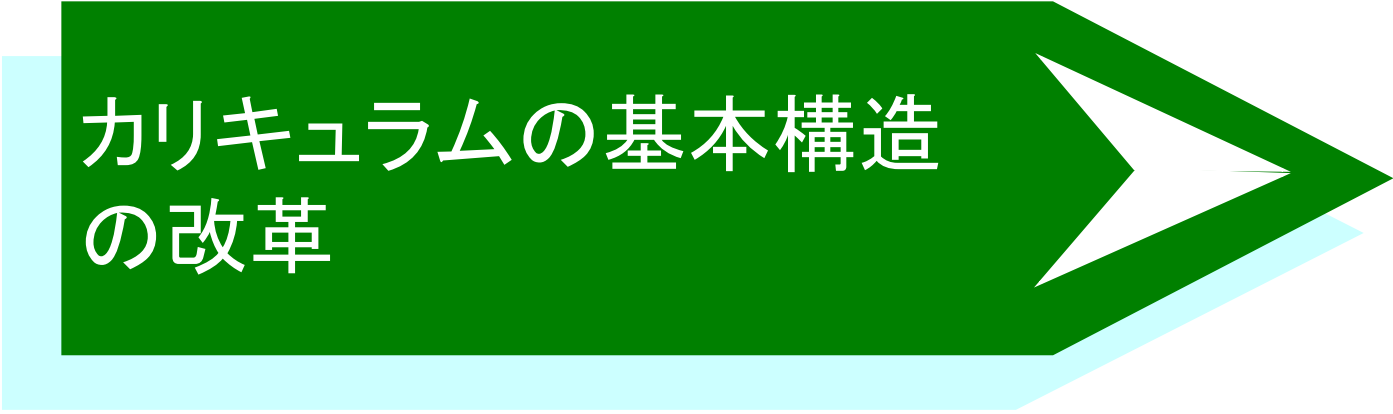
関学キャリア教育の 新たな基盤

約**11,000**名履修
2022年度（春・秋学期）



<登場卒業生>

佐藤 祐介 氏 ヘイ株式会社 代表取締役社長
岡本あゆみ 氏 ヤフー株式会社 データサイエンティスト
長尾 行泰 氏 外務省 コンゴ民主共和国大使館一等書記官
井川 沙紀 氏 ブルーボトルコーヒー ブランドストラテジックアドバイザー
宮内 義彦 氏 オリックス株式会社 シニア・チェアマン 等



カリキュラムの基本構造 の改革



1-(3)-② : AI活用人材育成プログラムの推進

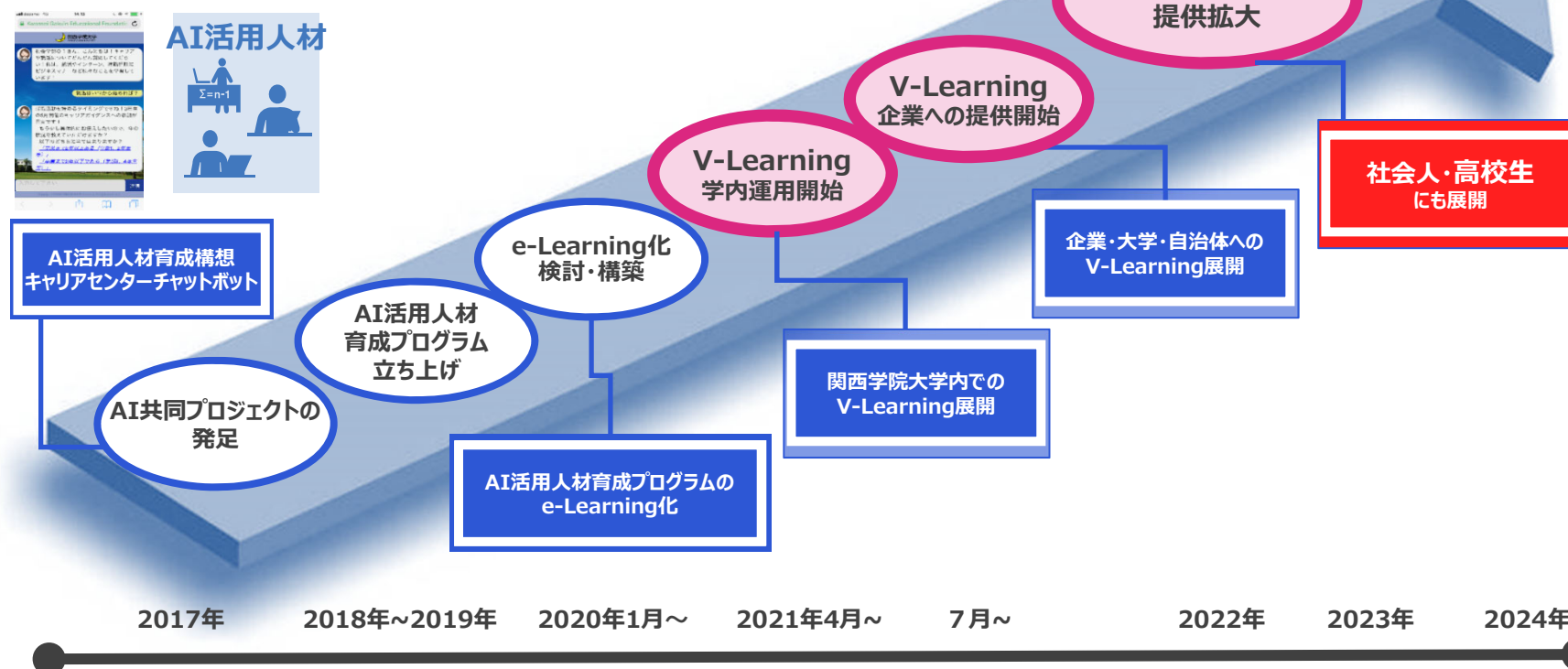
2022年度の目標⇒実績

オンデマンド1科目新規作成⇒オンデマンド4科目提供

AI活用人材育成プログラム受講者数の増加(「AI活用入門」)4,000人⇒ 5,492人

10科目プログラム修了者20人⇒修了者6人

日本IBMと共同開発した「AI活用人材育成プログラム」(10科目)は、4科目をバーチャルラーニング化し、延べ8500人が受講するプログラムに成長。企業、他大学、院内各学校へも展開中。





1-(3) 学内受講者数・学外販売実績（2022年度）

2022
年度

2022年度の目標⇒実績

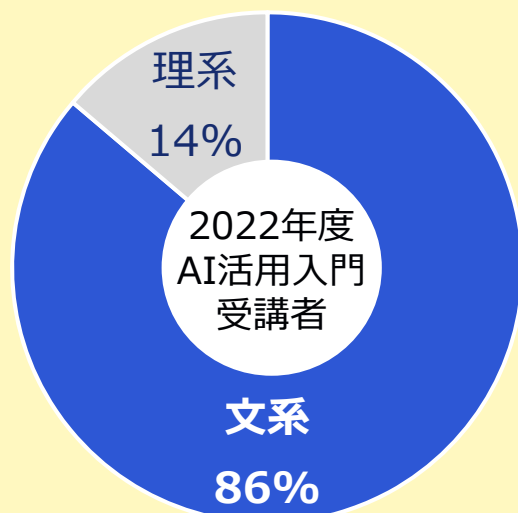
オンデマンド1科目新規作成⇒4科目目を提供
「AI活用入門」の受講者数 4,000人⇒ 5,492人
10科目プログラム修了者20人⇒修了者6人

学外の受講者数5,000人⇒ 2,910人

学内受講者数

10科目のべ受講者数 **8,435名**
10科目修了者 **6名**

「AI活用入門」
5,492名
うち文系受講者
86%



学外販売数

128社の企業・団体に導入
のべ受講者数 **2,910名**

一部抜粋

企業

大同生命保険、
あおぞら銀行、
DHLジャパン
神姫バス等

自治体

兵庫県
京都府
(補助金制度)

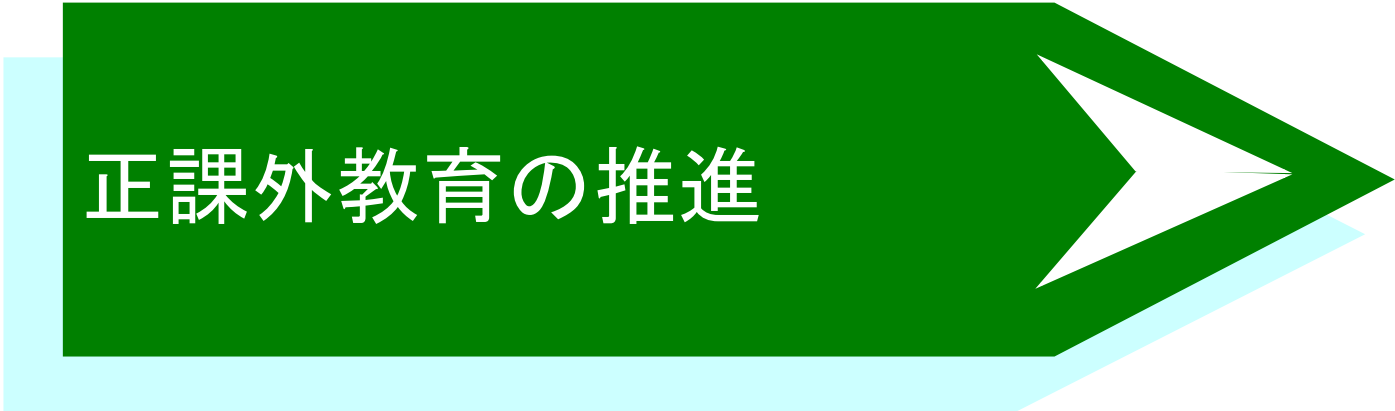
学校法人

新潟産業
大学

22年4月
開始

個人向け販売 のべ224人
(うち同窓生142人)

文部科学省助成制度
「DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業」に採択
(2021年度4500万円補助)



正課外教育の推進



1-(8)大学競技スポーツ局(KGAD)の主な取り組み

2022
年度

2022年度の目標⇒実績

KGAD加盟の増加(15団体19チーム)⇒20競技27チーム+学生本部
地域連携・企業連携(パートナーシップの獲得)の推進(2022年度より新規)⇒1協会+3企業と
パートナーシップ協定締結

主たる取組内容

安全・健康

学業両立

競技力向上

社会貢献
競技の普及

広報
ブランド

主な施策

講習会の開催

Academic Eligibility制度

指導者育成・援助

企業連携

WEBによる動画配信

加盟数 20競技28チーム
(2023年3月末時点)

コンプライアンス研修会等
講習会・シンポジウム計6回

指導者招聘のための援助制度

1協会・3企業とのパートナー
シップ協定締結

KG SPORTS STARS
による広報活動



KGADは、競技スポーツおよび関連する活動を通じて・・・Kwanseiコンピテンシーに掲げる知識・能力・資質を修得し、・・・「**Mastery for Service**」を体現する世界市民」を育成することを目的とする。

→ 学生が企画、制作して、
KGスポーツの魅力をYouTubeで配信



3. 研究

競争的環境により、
「世界トップレベルの研究」を創り出す



1-(4) 1. “Sustainable Energy” の一大研究拠点を形成

「QureDA Research(キュレダリサーチ)」を豊田通商と設立

関西学院大学は豊田通商と、パワー半導体材料であるSiCウエハの研究開発を行う会社「QureDA Research株式会社」を共同出資によって設立。金子忠昭・工学部教授が創発した、SiCウエハの表面ナノ制御プロセス技術「ダイナミックエーシング」と、ウエハの加工で生じる結晶表面の歪みを可視化する計測技術を軸に、ウエハの高品質化や生産性の向上、大口径化に取り組み、2025年の実用化を目指す。また、関西学院は、本学発のスタートアップ企業への投資等を目的とした「株式会社KGVC」を設立、第1号としてKGVCがQureDA Researchに3.25億円を出資した。

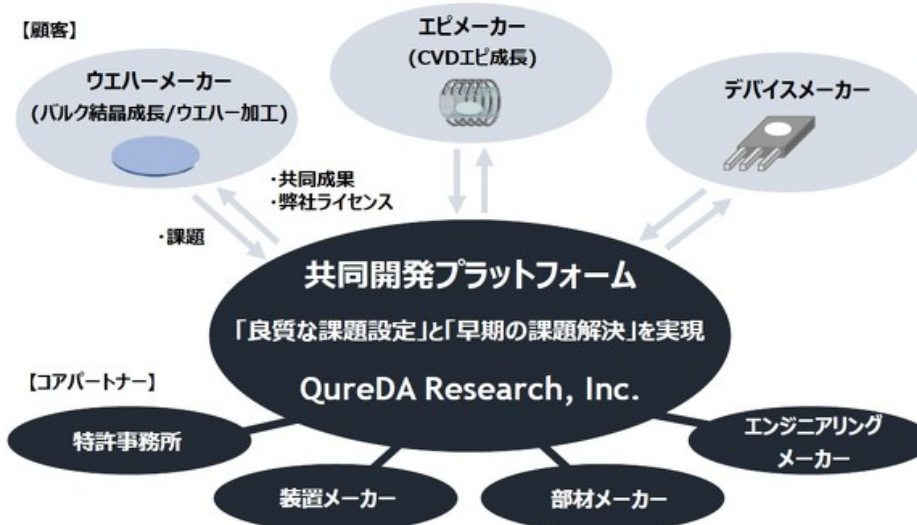


(2023.3.22合同記者会見)

左から国弘氏(豊通)、瀬川氏(QDA代表取締役社長)、金子工学部教授(QDA代表取締役CTO)、村田学長

ビジネスモデル

弊社独自の革新的技術を通じた開発P/Fを形成し顧客課題解決を図る





1-(4) 1. “Sustainable Energy インスティテュート”

2022
年度

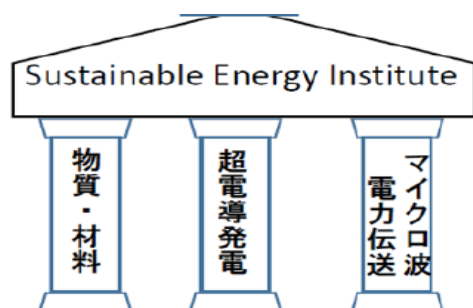
2022年度の目標⇒実績

制度の創設⇒先行していた制度を正式に承認し、第2号を選定。

インスティテュート制度

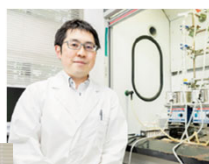
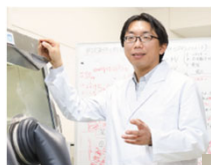
大型研究プロジェクトへの採択など高度な研究拠点化をめざし、物的・人的支援を強化する仕組み。

学長指定研究「持続可能な社会に向けた革新的エネルギー材料・システムに関する研究」をインスティテュート制度の第2号に選定



関西学院大学

所 長: 吉川 浩史 工学部教授
副所長: 葛原 正明 工学部教授
メンバー: 田中 大輔 理学部教授
大屋 正義 工学部准教授



脱炭素社会の実現、再生エネルギーの主力電源化に向け、以下の3本柱で研究を推進する。

【物質・材料】—吉川教授・田中教授

革新的二次イオン電池電極や触媒に関する研究

【超電導発電】—大屋准教授

液体水素冷却による高温超電導発電の開発

◎NEDO先導研究プログラム／新技術先導研究プログラム(エネ環)に採択

【マイクロ波電送】—葛原教授

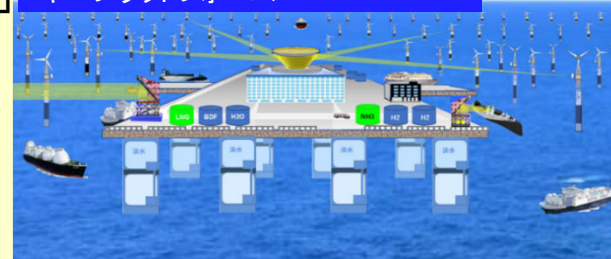
マイクロ波電力伝送に関する研究開発

◎海洋浮揚風力で発電したエネルギーを海洋上にある蓄電ダムから陸地へ転送する「海洋インバースダム構想」(右図)の一翼を担う。



風力4500万KWを達成可能なエネルギープラットフォーム

KID-S
—持続可能な人間社会インフラシステム研究会



4.総合学園と一貫教育

建学の精神を共有し、
幹の太い総合学園を実現する



4-(2) 院長室からのメッセージ動画「風に思う」

2022
年度

2022年度の目標⇒実績

アイデンティティ浸透に関する発信の実施＜体制変更に伴う目標数値未設定＞
⇒院長室からのメッセージ動画、ショートムービー配信

キリスト教主義に基づく関西学院のアイデンティティ
スクールモットー “Mastery for Service” を院内および学外への浸透をめざす

院長室からのビデオメッセージ 「風に思う」 2022年6月より定期配信(1～2本/月)



関西学院院長室だより
@KGChancellor・教育関連サイト



関西学院の基礎となっている聖書の言葉を取り上げ、その言葉が現代のわたしたちに語るメッセージを分かりやすく語ります。

公式Facebookを開設 「関西学院院長室だより」

中道基夫・院長と院長室のメンバーが、
日々の院長室の活動についてお知らせを発信



4-(4) 高等部の特長ある取組み

2022
年度

2022年度の目標⇒実績

「WWL・SGH甲子園」後継事業(探究型カリキュラム、グローバルリーダーズプログラム)実施
⇒ 高等部独自の「探究型カリキュラム」継続実施と成果発表「中高生 探究の集い」実施。
「BiZWrold」参加者数30名⇒ 24名

「中・高生 探究の集い」実施～WWL事業”AI活用 for SDGs”

— 探究学習に打ち込む生徒が対面で成果発表 —

全国より 中学・高校45校 約300人 が参加

＜提供プログラム＞

コンテスト部門：探究学習の成果発表(審査あり)

オープン部門：対話重視のポスターセッション(審査なし)

生徒交流会：参加中高生の対話・交流の場

教員講演会：探究学習の実践例共有



「ひょうごスタートアップアカデミー」への参加

兵庫県の支援を受け、2022年度から「ひょうごスタートアップアカデミー」に参加。シリコンバレーで生まれた初中等教育向けのアントレプレナーシップ教育プログラム「BizWorld」を導入し、高等部生が2学期間にわたってビジネス基礎、マーケティング、投資、社会課題の解決など多角的に起業について学んだ。(啓明学院中学部も同プログラムを導入)



関西学院高等部で始まった「ひょうごスタートアップアカデミー」の様子＝西宮市上ケ原一番町(兵庫県提供)

8.学校経営

ガバナンス改革を進め、
総合的マネジメントを実現する



ブランド構築



8-(11) 包括的ブランディングコミュニケーションの展開

2022
年度

2022年度の目標⇒実績

ブランディングパートナーの設定、オウンドメディア記事の読了率30%
⇒29.41%、オウンドメディア(月と窓)開発及び書籍化、MfS実践者のブランディング広報の仕組み構築



「月と窓—豊かな未来に光をあてる」

・・・オウンドメディアとして、2022年度に開設。関西学院の教員らが持つ専門的知見を5つのテーマ（Career, Culture, Technology, Well-Being, Research）で掲載。
※ 冊子化して教職員へ配布済み。

「さまざまな世界につながる窓と、窓の外を照らす学術の光を届けたい。そこから、真に豊かな人生を築くための糧を得て欲しい。」というコンセプト。

30代～40代のビジネスパーソンに向けて、豊かな未来のための「知」を発信。



SDGsの推進



8-(12) SDGs推進(学生による取り組み)

2022
年度

2022年度の目標⇒実績

「KG SDGs学生キャンパスサポーター」の本格始動 ⇒学生22人在籍、各種イベントを実施



「KG SDGsキャンパスサポーター」「関西学院大学SDGs推進本部」公認の学生団体)

学生が主体となりSDGsの普及・実践に取り組む(2021年12月創立、2022年4月本格始動)

【団体の目標】

- ・『SDGsの活動を行っている』または『行いたい』学生が共に活動できる場を創ること
- ・SDGsを詳しく知らない学生に対して普及活動を行う(キッカケ提供)

【団体の役割(プラットフォーム機能)】

学内でSDGsに取り組んでいる団体と関係を構築し、団体間の連携を促進し、一丸となってSDGsを推進していく体制を整える



<活動実績(一部紹介)>

ひょうごSDGsシンポジウム登壇

2022年10月24日開催@県公館兵庫県主催の講演・事例発表会

KG SDGsカフェ主催

SDGs関連活動に取り組む学内団体の交流会(7団体・約30名参加)

GPSプロギング

ジョギング×ゴミ拾い×GPS アート

学内の国際交流団体(GS Network)との合同企画

SDGsに向けたアクションを通じて、外国人留学生との意見交換の場をつくる





基盤計画

関西学院が具体的な改革を推進していくための
財政、施設、情報等の基盤を整備する

財政計画



8-(3) 修正した財政計画(2022－2027)の概要

2021
年度

- 1 新規事業費用（経常費）
毎年2億円ずつを投入（ただし2021年度に、さらに4億円を投入）
（2027年には単年度で24億円）
- 2 建設費用
総額492億円で計画（ただしDX戦略に関して施設建設費が増加する可能性あり）
- 3 情報化費用【建設費用から全額移管】
総額36億円で計画（ただしDX戦略に伴い増加予定）
- 4 財務指標（ただしDX戦略に伴い、次年度見直し予定）
 - （1）フロー（事業活動収支差額比率）： 6%以上（2027年度）＝健全性
※2039年度までに8%にする。
 - （2）ストック（実質支出超過額比率）： 50%未満（2027年度）＝安全性
※実質支出超過額比率＝（翌年度繰越支出超過額+借入金残高）÷事業活動収入
- 5 収入増・支出削減
 - （1）政策的な収入増加額は 28億円/年（2017年度比）
 - （2）政策的な支出削減額は 5億円/年（2017年度比）
- 6 新規事業停止の条件
2022年までに以下の具体的な見通しが立たない場合は新規事業を停止
 - （1）（収入増） 12.0億円/年
 - （2）（支出削減） 2.5億円/年

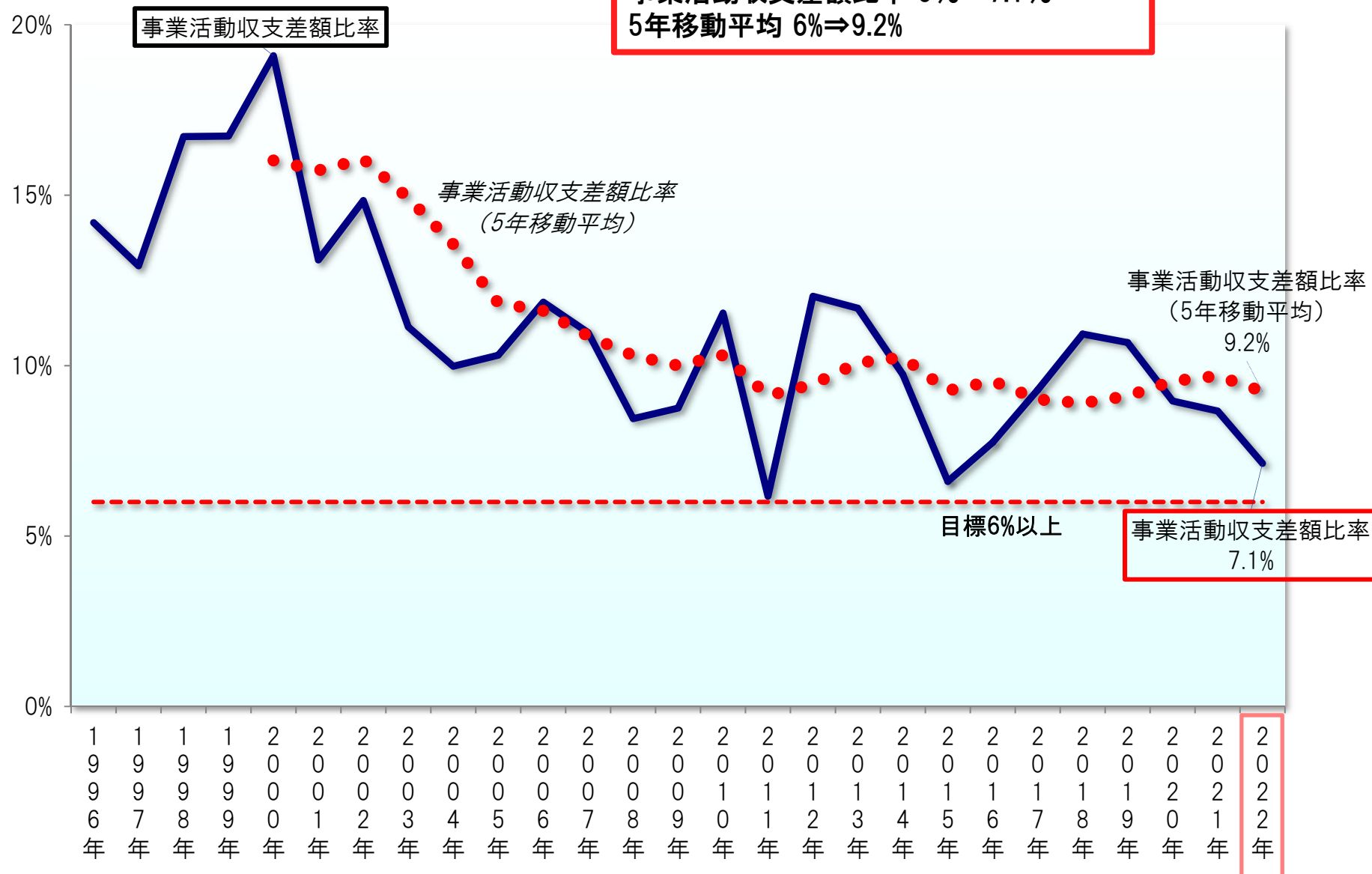


8-(3) 事業活動収支差額比率の推移

2022年度の目標⇒実績

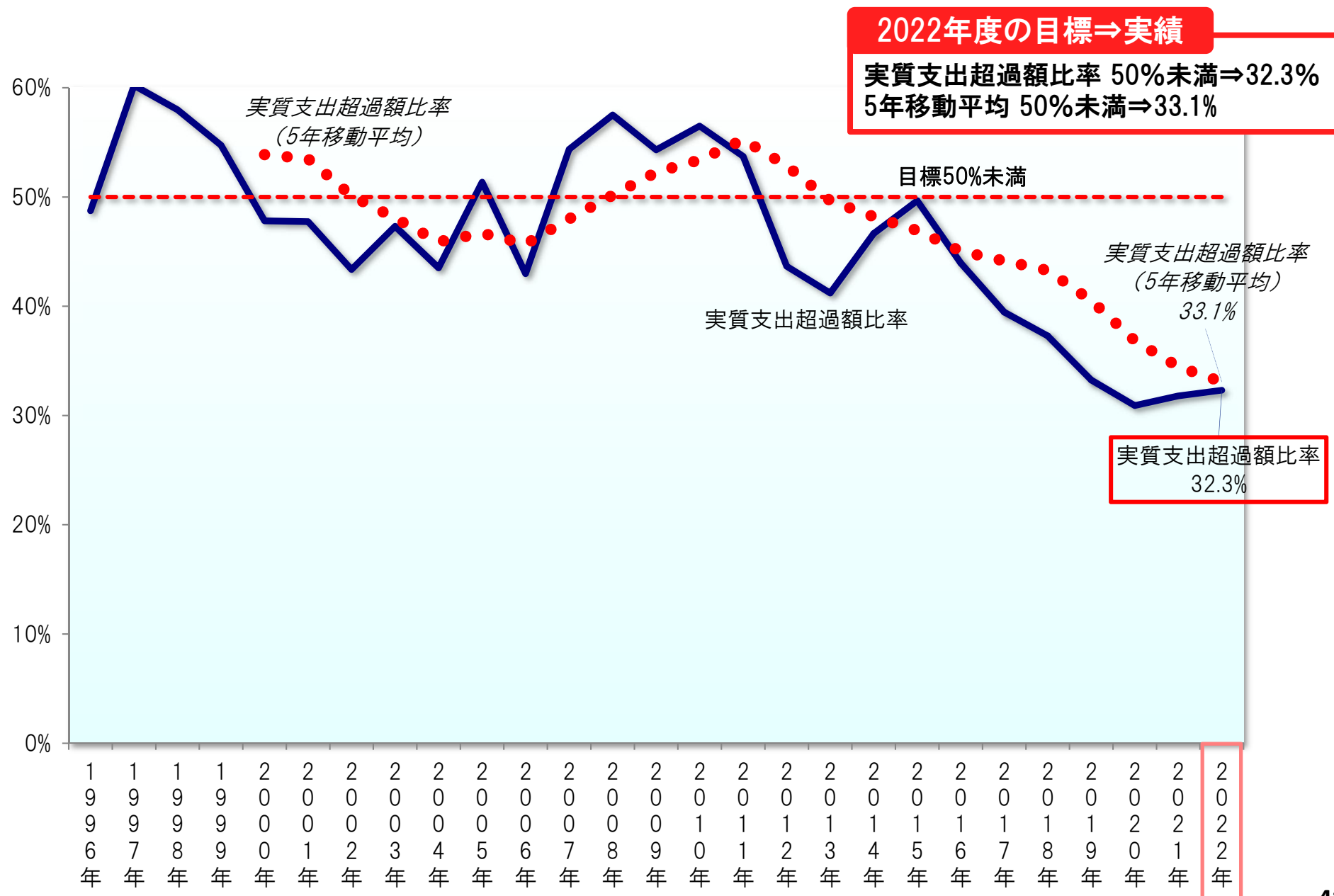
事業活動収支差額比率 6%⇒7.1%

5年移動平均 6%⇒9.2%





8-(3) 実質支出超過額比率の推移





総合建設計画



8-(7) 総合建設計画(2018-2027)の費用概算(修正後)

総合建設計画(2018-2027)		主な事業	小計
戦略インフラ	西宮上ヶ原キャンパス整備	①～⑧(次頁参照) ＋西宮北口キャンパス開設等	162億円
基本インフラ	老朽化に伴う改修・補強	学院全体で23案件	189億円
新規計画	期中に発生する施設建設等	国際教育寮「有光寮」 KSC新棟(再編に伴う増設) KSC複合施設(インキュベーション＋学生寮)等	146億円
合計			497億円

策定段階での予算枠は400億円だったが、新規計画が35億円から146億円に増え、建築費の高騰等によって戦略インフラが5億円増、基本インフラが18億円増となるなど合計533億円となった。なお、情報化に関する費用(36億円)を分離して情報化計画として独立させたため、2022年5月時点で総合建設計画の総額は497億円となっている。



8-(7) 総合建設計画(戦略インフラ部分)

2022
年度

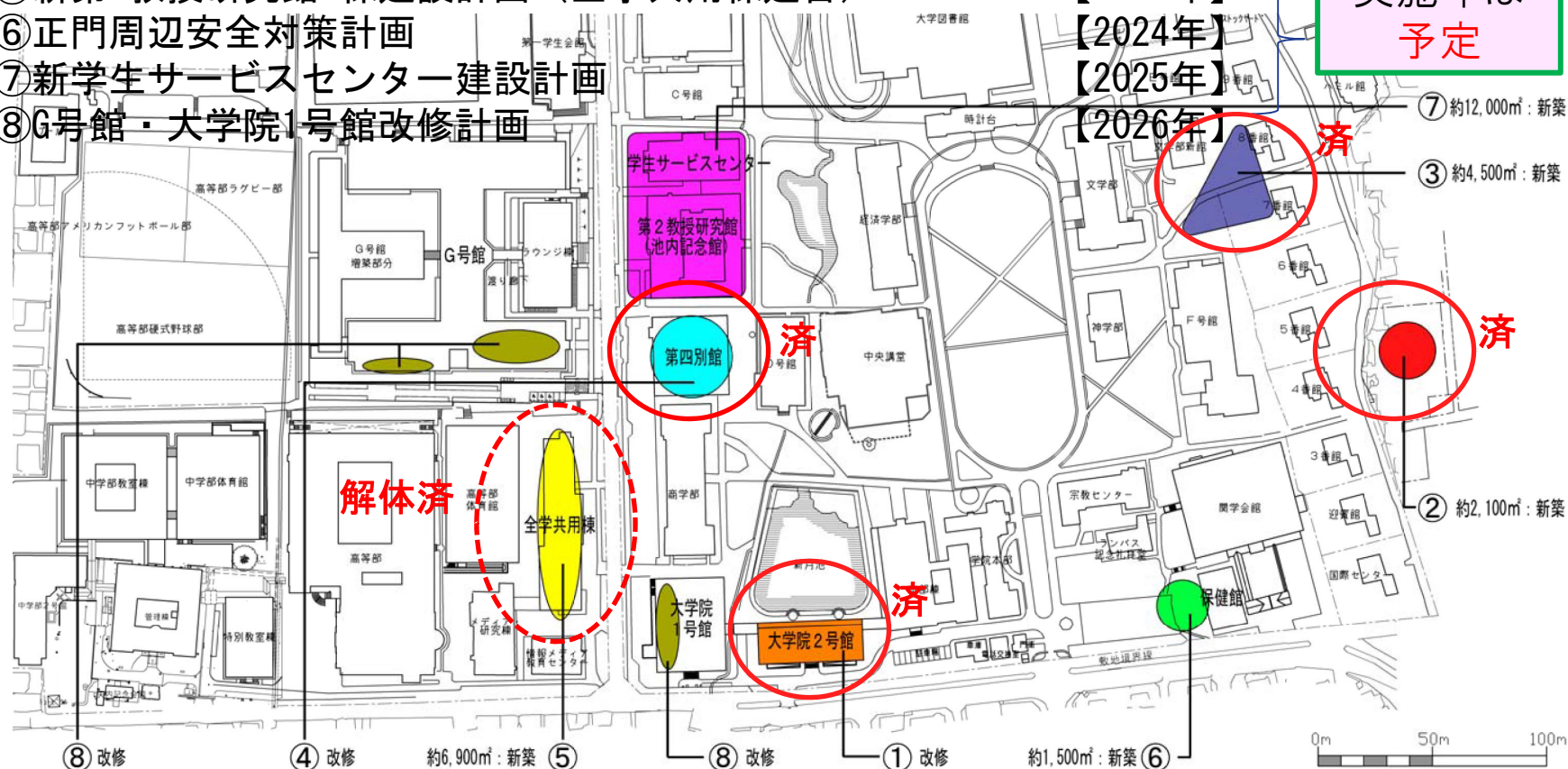
2022年度の目標⇒実績

第4別館改修、全学共用棟解体⇒実施

新学生サービスセンターの基本計画策定⇒検討中

- | | |
|--------------------------|-----------|
| ①大学院2号館改修計画 | 【2019年完了】 |
| ②仁川五ヶ山町建設計画 | 【2020年完了】 |
| ③新第2教授研究館A棟建設計画（北西部新築） | 【2021年完了】 |
| ④第4別館改修計画、全学共用棟解体 | 【2022年完了】 |
| ⑤新第2教授研究館B棟建設計画（全学共用棟建替） | 【2023年】 |
| ⑥正門周辺安全対策計画 | 【2024年】 |
| ⑦新学生サービスセンター建設計画 | 【2025年】 |
| ⑧G号館・大学院1号館改修計画 | 【2026年】 |

実施年は
予定





情報化計画



情報化計画—DX環境整備の進捗状況

2022
年度

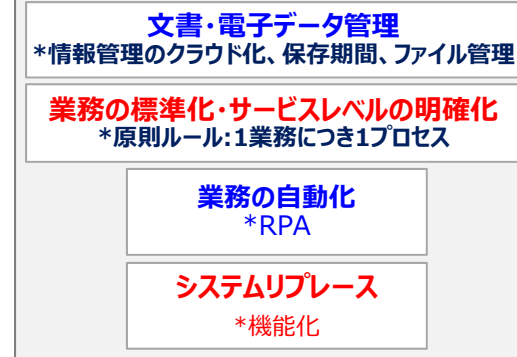


※青字は「完了」または「進捗中」 赤字は今後の検討テーマ・施策

タッチポイントのデジタル化



全学ルール整備



デジタルを前提とした学内環境を整備(D)し、学生・教職員の行動変革(X)をめざす。



9.情報化計画－2022～2023の活動

2022
年度

2022年度の目標⇒実績

情報化計画施策10項目の実施⇒10項目実施済み。うち2項目は2023年度も継続して取り組む。
既存システムリプレイス6項目⇒6項目取り組み開始、2023年度も継続して取り組む。

		2022年度	現在	2023年度
情報化計画施策	タッチポイントのデジタル化	➤ 各サービス・システムの一元化、タッチポイントのデジタル化		➤ デジタルを活用し、サービスや業務を標準化・効率化・自動化
		◎ ポータルシステム追加改修		
		◎ 会議のペーパーレス化 (ECO Meeting)		施設・教室予約 (TriRCampus)
		◎ e投票 (電子投票)		学生相談・面談予約 物品予約管理
		○ 物品購買 (A-SOM)		
		◎ RPA拡張 (Ui Path)		
		◎ ワークフロー開発 (SmartDB)*出張旅費精算含む		
		◎ AI-FAQ・チャットボット導入・拡張		学生対応履歴管理
		◎ オンラインブース設置		
		○ ICTサポート体制の統合化		
既存システムリプレイス (一部 情報化計画施策含む)		◎ 情報基盤整備リプレイス *コミュニケーションツール (Slack)、働き方の見直し、データの取り扱い、電話刷新等の検討		
		○ LMSシステムリプレイス		
		○ 学生システムリプレイス		
		○ 教研システムリプレイス		
		○ 事務クライアントシステムリプレイス (事務PC)		
				共通システムリプレイス
		○ 共通基盤移設クラウドストレージ導入 (BOX)		
		○ ネットワーク増強・リプレイス		

◎ 2022年度実施済み
○ 2022年度取り組み開始、2023年度も進行中

ご清聴ありがとうございました。

関西学院神戸三田キャンパス